

環太平洋研究のための基本文献

「環太平洋研究」という研究分野が確立しているわけではないので、以下にあげる文献は導入的なものでしかないから、本基本文献から各自が汲み取った興味関心に即して学びを広げていってもらえればと思う。またいわゆる「地域」を専門的に学ぶということとは違って、「環太平洋」という交空間的、間通史的にしか捉えるほかはない視座に触れることは、国民国家や先進諸国を中心とするこれまでの地域研究や歴史学の前提を相対化し、「地域研究」への関心を広げることにも資するはずである。

<事典>

- 加藤めぐみ・石川栄吉・小林泉監修『[新版 オセアニアを知る事典](#)』2010年、平凡社。

オセアニアに関して、最新で豊富な解説・情報・説明をおさめている。

- 太平洋学会編『[太平洋諸島百科事典](#)』原書房、1989年

ポリネシア、メラネシア、ミクロネシア、小笠原などの地政学的に周縁化されてきた太平洋諸島を専門的に扱っている事典。少々前の刊行のため情報としては古くなっている部分もあるが、類書がないだけに貴重で学ぶことも多い。

<入門・概説書>

- 増田義郎『[太平洋一開かれた海の歴史](#)』集英社新書、2007年

★図書館では [2004年初版](#)を所蔵

太平洋史ということであれば何はともあれ読むべき入門書。通史的、圏域的に読みやすくまとめられているが、著者の世界史的な視野と造詣は奥深く、「歴史」それ自体の読み物としても傑出したものである。

<専論・研究書>

- 佐藤幸男編『[太平洋世界叢書 1 世界史のなかの太平洋](#)』国際書院、1998年

国際政治学を中心として太平洋島嶼国・地域の今日的な政治的課題が論じられている論文集。太平洋島嶼国・地域の政治的状況について端的に知るのに有益である。なお、以下の3冊も、同シリーズのものである。

○春日直樹編『[太平洋世界叢書 3 オセアニア・ポストコロニアル](#)』国際書院、**2002年**

オセアニア島嶼地域におけるポストコロニアル問題の諸相が、文化人類学や文学研究といったアプローチから提示されている論文集。

○小柏葉子編『[太平洋世界叢書 4 太平洋島嶼と環境・資源](#)』国際書院、**1999年**

太平洋島嶼地域と環境・資源との関係に焦点が当てられた論文集。国際関係論、社会学、文化人類学、漁業経済論、食生態論といった多様なディシプリンから、現在の太平洋島嶼地域が抱える環境や資源についての諸問題が別決されている。

○佐藤幸男編『[太平洋世界叢書 5 太平洋アイデンティティ](#)』国際書院、**2003年**

グローバリゼーション下で、再編成・再構築されている「太平洋」というアイデンティティは、従来の枠組みでは捉えきれない、域際的で、開放的であることが種々の観点から扱われた論文集。

○原田勝弘・下田平裕身・渡辺秀樹編著『[環太平洋 先住民族の挑戦 自治と文化再生をめざす人びと](#)』明石書店、**1999年**。

環太平洋地域については、いわゆる先住民問題を抜きに考えることはできない。本書は「西洋」の学知の対象ではない形で、環太平洋地域先住民の自律的な生き様と現在を扱った論文集である。日本の先住民（北方民族、アイヌ）の「現在」も扱われている。

(2013年9月 李 孝徳)